

令和6年度鎌倉国宝館協議会 会議要旨（書面会議）

開催期間：令和7年3月18日～令和7年3月25日	
出席者（返信者）：薄井委員長、大三輪委員、齋藤委員、瀬谷委員、牧野委員、吉田委員	
議題	意見・回答
1 報告事項 （1）令和5年度実施事業の概要について ・特別展「特別展「大正地震100年・元禄地震320年 2つの関東大震災と鎌倉」の開催 ・特別展「国府津山 宝金剛寺—密教美術の宝庫—」の開催 ・その他	（委員）震災展は国宝館創立にも関わる企画であり、災害と文化財保護を未来に向けて考える上でも重要な展示であったと思います。また地域連携の観点も良かった。宝金剛寺展は国宝館に縁の深い企画であり、上質な文化財公開の場をつくった良い展示でした。ご苦労多かった様ですが。 （委員）国宝館の強みを生かした展示ができていたと思う。今後も「中世鎌倉」というテーマだけに拘らず、近代や市外の寺院といった幅広い内容で学芸員の得意分野を活かしていただきたい。 （委員）特別展について、鎌倉の歴史や災害に関心の高い方々の学術的興味を引く企画で、「大正地震100年・元禄地震320年」にあたることから被災や修理の資料展示、特に寺社の復興や文化財の修理に焦点を当てた事は良かったと思います。普及活動の（1）出張講座は児童・生徒が受講して鎌倉の歴史に興味・関心を持たせる良い機会になっています。 （委員）活発に活動されていることが伝わってきました。なかでも喜ばしいことは、2名の学芸員が文化庁主催の研修を修了され、また設備を修繕されたことで、再び公開承認施設になられたことです。鎌倉市と周辺寺社のみならず全国的に重要な施設でありますので、継続的に実質的な取り組みをされるようお願いいたします。 （委員）積極的な事業展開で頼もしく感じます。
（2）令和6年度事業の進捗状況について ・特別展「鎌倉旧国宝展」及び特集展示「鎌倉の伝運慶仏」の開催 ・特別展「集結！北斎のエナジー—肉筆浮世絵の殿堂—」の開催 ・その他	（委員）鎌倉旧国宝展は国宝館創立と文化財保護法等を歴史的に紹介した国宝館ならではの特色ある展示でした。また、伝運慶仏展は、近年の運慶人気を受け、来館者数、図録売上げ共上々とのこと、関係施設との連携など良い成果でした。 氏家コレクション展は国宝館のもう一つの特色ある展示ですので堅実なる内容で継続していただきたい。 （委員）横須賀美術館・金沢文庫との連携企画は大変良いアイデアであり、入館者数にもその効果が如実に表れている。普段、国宝館に足を運ぶことがない市外の方々を呼び込む機会にもなるので、今後も積極的に連携企画を進めていただきたい。 （委員）展覧会名が親しみやすく、興味をひく名称となって良いです。特別展での「鎌倉の伝運慶仏」の展示を横須賀美術館・神奈川県

	立金沢文庫との連携展示として3館で行えた事はとてもいい企画でした。 特別展「集結！北斎のエナジー」のご招待を素敵な封筒でいただき感動しました。特別内覧会伺います。シンポジウムもとても興味深く楽しみにしています。 (委員) 特集展示「鎌倉の伝運慶仏」において、近隣施設との協力連携をされたことにより、来館者増につながられ、図録も好評であったことがとくに高く評価できます。多くの方に来館いただき、見ていただくことが博物館にとって大切ですので、意欲的な企画を継続ください。 (委員) 順調に推移していることが理解できます。新規の学芸員採用や研修による専門性のさらなる獲得など、今後に向けての新たな基盤づくりという意味でも素晴らしいことと感じます。
(3) 令和7年度展示予定について ・コレクション展「#鎌倉国宝館」について ・特別展「扇影衣香」について	(委員) コレクション展「#鎌倉国宝館」、新しい試みを行うとのこと、近時多くの博物館・美術館で行われており、時代のニーズに応える方向として期待されます。ただし、鎌倉国宝館としての節度と線引きは厳しく行ってください。 建長寺蘭溪道隆坐像の寄託はとても喜ばしいニュースですね。 「扇影衣香」展については、国宝館の新しい発展を目指すひとつの切口となる様期待されます。 (委員) スマホ撮影可という試みに驚いている。入館者のSNS投稿での宣伝効果に期待する一方、きちんとマナーが守られるのかという不安もある。彫刻側での撮影が行われてしまった際にはその場でデータを削除してもらう旨を入口で強く伝えるなど、トラブルが無いよう細心の注意を払っていただきたい。 また、鎌倉の文化財の多くは東アジアとの関わりが強いので、東アジア文化事業関連の特別展はアジアからの観光客に対する良いアピールになると思う。中国出身僧である蘭溪道隆像の寄託も新たな国宝館の目玉として期待したい。 (委員) スマートフォンでの撮影ができるようになり、SNSへの掲載も可とする初めての試み、宣伝効果がありそうです。期待しています。 特別展「扇影衣香」の仏教絵画を中心とした特別展の開催では、他の国との文化の国際発信力の強化を望みます。 (委員) スマートフォンによる館蔵品の撮影許可という試みは、たいへん勇気が要と思いますが、現代社会において無視できない広報効果を持っています。「鎌倉市にふさわしい博物館基本計画」素案にもありますように、デジタルミュージアムを推進する上

	で、スマートフォンをどのように活用するか、展示解説や音声ガイド、独自のアプリ開発など、他館の状況も研究され、鎌倉国宝館がさらに先進的な位置へ行けるようお願いいたします。 (委員) 貴館の資料や特性を活かした良い内容と思います。
(4) 公開承認施設の再承認について ・令和6年3月29日付で再度公開承認施設となったことについて	(委員) 公開承認施設復帰の件良かったです。というより当たり前のことです。国宝館の存在価値そのものに関わることでありますので二度と失効など無き様、市当局と共に堅持してください。ベースとしての施設の維持、人材の充実もはかってください。 (委員) 最大の心配事であったので再承認を受けることができて安心した。現在でも常勤の学芸員の数は十分とは言えない状況なので、二度とこのようなことが起きないよう人員の確保に努めていただきたい。 (委員) とても嬉しい報告です。2名の学芸員の方は立派な専任の学芸員となられ、素晴らしいことです。また公開承認施設となったこと、喜ばしいです。今後も鎌倉市にとって重要な施設であってほしいです。 (委員) (1) に書きましたように、非常に喜ばしいことですが、これを「喜ぶ」のではなく、伝統を持つ鎌倉国宝館にとっては「当たり前」のこととして、優秀な人材の確保と育成、必要十分な設備の維持と先進的な施設の充実を確実に達成いただくことが、鎌倉市と全国の博物館、文化行政上も必要と考えます。優先施策として位置づけてくださるようお願いいたします。 (委員) とてもよかったと思います。継続されることを願っております。
(5) 鎌倉市にふさわしい博物館基本計画の進捗について	(委員) 鎌倉国宝館として、文化財保管と実物公開展示という機能・役割は最も根底にしていきたい。その上で、時代の変化・ニーズに応えられる魅力あふれる施設をめざしていただきたい。デジタルアーカイブとしての計画は重要です。「ふるくてあたらしい」博物館となってほしい。 (委員) 計画は素晴らしいが、内容が多岐にわたっているので、優先順位を付けるなど実現までの道筋を整理する必要がある。策定委員の一人として委員会でも意見したが、まずは既存施設の整備に力を入れていただきたい。 (委員) 「鎌倉市にふさわしい博物館基本計画」の策定に向け、博物館の基本的な機能や人員、設備等を強化し、様々な面での工夫・努力を重ねてほしいです。 (委員) デジタル化の基礎のひとつである所蔵品画像のデジタル化、アーカイブ公開ですが、写真原版総数がフィルム枚数の報告のみ

	であることに違和感があります。以前の協議会でもお伝えした記憶がありますが、普段の調査や展覧会等でデジタル画像の新規撮影をたいへん意欲的になさっているので、その数の把握に努められることは、将来的なデジタルアーカイブ作製におけるシステム構築や予算化にも大切かと思います。「デジタル」はあくまで道具ですので、これによって何を伝えたいのかも優先して取り組みください。 (委員) 予算などクリアすべき課題は多いと想像しますが、国宝館や交流館の地域における役割という観点から必要な計画ですし、長期的なビジョンにたったものと理解します。埋蔵文化財部署ではいろいろな遺跡保存や活用についても進捗しているのでそうした成果も含められるとなお良いと思います。 他方、市役所移転や広範囲な鎌倉市の観光という意味では大船周辺などに博物館があると良いかと常日頃感じています。明治～昭和初期などをテーマにしたこれまでとは異なる魅力の発信として今後検討していただけると幸甚です（最近、台北にて市場の博物館を見学しました。開発という観点から非常に興味深かったです）。
2 その他 (1) 鎌倉国宝館開館 100 周年事業について ・ 令和 10 年 4 月 3 日に開館 100 周年を迎えることを記念し、記念誌や展覧会の開催等を計画していることについて	(委員) 鎌倉国宝館開館 100 周年は、単に鎌倉地域にとどまらず、全国的に考えても文化財保護等の起点のひとつとして重要と位置づけられると思う。様々な展示や出版、講演等でアピールしていただきたい。 市当局が重点事業として取り上げてくれないことは残念。市当局の鎌倉の歴史・文化財に対する更なる認識の向上を望む。 (委員) 国宝館が国内でも有数の歴史を誇る博物館施設であることは市民にあまり知られていない。国宝館の歴史は鎌倉の文化財保護の歴史といっても過言ではなく、国宝館が誕生した経緯やこれまでに果たしてきた役割を広く知ってもらうためにも市を挙げて各種事業を進めるべきと思う。市の重点事業としての予算化を強く希望する。 (委員) 鎌倉国宝館開館 100 周年を記念して、事業を企画しているにも関わらず計画や予算については重点事業化が見送られてしまった事、残念です。令和 8 年度の重点事業になる事を願っています。 (委員) 100 周年という大きな節目を契機に、これまでの振り返り、これからの 100 年の目標をたてることは大切なことだと考えます。鎌倉国宝館というブランドが、鎌倉市や日本で何を成すかの使命を確認し、迷わず事業を進められるために、年度単位によら

	ない十分な予算を計上されることを強く希望します。 (委員) 多岐にわたる計画、とても楽しみです。予算面では確かに課題がありますが、できればボランティアの手を借りるというのも一案かと思います。近隣の学校などに声掛けをしてみると良いかもしれません。
(2) 空調設備の改修計画について ・展示場及び収蔵庫の空調設備修繕の必要性について	(委員) 空調設備は博物館施設のかなめです。これを安全管理出来なければ収蔵品の事故にもつながりかねません。何としても強力に計画を推進していただきたいと思う。 (委員) 文化財を安全に保存管理することは博物館施設の基本中の基本なので、重大な不具合が生じる前に改修することを希望する。もしも社寺からの寄託品をカビ等で毀損する事態が起これば、館と社寺との信頼関係を損なうことになりかねない。最優先課題として予算を確保し、取り組んでいただきたい。 (委員) 鎌倉市の重要文化財を健全に保管する為にも予算化が必要だと思います。鎌倉市の財政が厳しい点はわかりますが、現状では湿度管理に無理があります。今後も設備を含めた建物の計画的な改修の実施を目指してほしいです。 (委員) ブラジル国立博物館が予算削減の果てに組織が健全に運営できなくなり、収蔵品の9割を焼失する災難にまで至ったことは記憶に新しいところです。空調設備は収蔵品管理の基礎であり、災害級の気候変動にいたっている近年においては優先して取り組むべき基盤事業という位置づけが求められます。設備改修の初期投資は莫大なものになりますが、空調が安定することにより、長期的に見たさまざまなリスクを軽減し、損失を防ぐことにもつながります。引き続き予算化への取り組みと鎌倉市、鎌倉市民のご理解をお願いいたします。 (委員) 資料保存の観点から最優先とすべきと感じます。